第 8 章
「特別軍事作戦」下のロシア国民の「声」

小林　昭菜

はじめに

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻（ロシアでは特別軍事作戦と表現する）が始まっておよそ 1 年が経つ。侵攻直後の 2022 年 2 月末から 3 月上旬にかけてロシアでは、様々な立場の人々が侵攻に対する多様な意見を発信することができていたように思う。例えば、一般市民、独立系ジャーナリスト、反政権活動家らによる SNS 投稿や抗議活動がロシア全土で展開していたことは記憶に新しい。

プーチン政権は 2022 年 3 月 4 日にロシア軍の信用を傷つけることを目的としたあらゆる公的な行為を罰する修正刑法を発表し [1]、これに違反した者を積極的に処罰するようになった。この法改正は、「特別軍事作戦」を反対していた市民、ブロガー、公人、独立系メディアへ影響を与え、個人ブログや SNS 配信活動の中止、停止、メディア活動の解散へと発展した。2022 年 12 月の時点で、反戦の立場のロシア国民に対する 300 件以上の刑事訴訟が提起され、少なくとも 378 人が被告人や容疑者とみなされた [2]（そのうち未成年者は 7 人含まれていた）。本稿は表面的には公の場で見聞きし辛くなっている、「戦時下」に埋もれたロシア国民の「声」に焦点を当て、閉鎖されたリベラル系メディアの現在、ウクライナ戦争下のロシア国民の心情を拾うこととしたい。

侵攻後のリベラル系メディアの情報発信 [3]

2022 年 2 月のウクライナ侵攻直後、ロシア都心部を中心に反戦デモが発生した [4]。

ロシア政府は翌3月中旬までに、反戦の宣伝に広く利用されていた主要なSNS（Twitter、Facebook、Instagram）を、ロシアから遮断した[5]。SNS遮断のあと、同種の情報統制はリベラル系有力マスコミへも拡大していった。ロシア政府の情報統制に対する本気度が良く現れている。本節は有力な露リベラル系メディアの「モスクワのこだま[6]」、TVRain[7]、「ノーバヤ・ガゼータ」を取り上げる。

「モスクワのこだま」は、ロシアの有力ラジオ放送局であり、政権に批判的な立場を取っていることで知られるが、3月3日に活動を停止（解散）した[8]。故意に「虚偽」の報道を行ったことが理由で、露検察庁が同ラジオ局へのアクセス制限を露通信・情報技術・マスコミ監督庁（ロスコムナドゾール）に要求し、同監督庁がウェブサイト等を3月2日に閉鎖した[9]。同ラジオ局はウクライナ語での番組配信を事前に申請していなかったとして3万ルーブルの罰金も科せられた[10]。

TVRainはロシア唯一の独立系テレビチャンネルであるが、同局も侵攻直後の3月4日に活動を停止した。最後の番組放送では、CEOのナタリヤ・シンデエワが、（一時的な停止と言及しつつ）活動停止は人生で直面したことのない難しい決定であったと述べた。最終放送回はRainのスタッフやジャーナリストの多くが、スタジオやオンライン上で集結し戦争反対を訴えた。放送終了後は映像が切り替わり、ソ連式の抗議を意味するバレエ「白鳥の湖」の映像を流した[11]。

独立系新聞「ノーバヤ・ガゼータ」は、2021年のノーベル平和賞を受賞したドミトリー・ムラトフが編集長を務める独立系メディアである。同局は既述の2局より粘っていたものの、3月28日に閉鎖された。「ノーバヤ・ガゼータ」は、3月28日に同社サイト上にて「ロスコムナドゾールから2度目の警告を受けた[12]。この後『ウクライナ領での特別作戦』が終了するまで、ウェブサイト、SNS、紙媒体での配信を一時停止する[13]。」と発表した。

このようにロシアでは独立系有力メディアが、侵攻開始から1カ月強の間に相次いで活動停止を余儀なくされた。しかしその後これらメディアの活動はYouTube等へ活動のプラットフォームを移行して、侵攻に対する多様な声を届ける努力を続けている。彼らのその後の活動を続けて紹介する。

「モスクワのこだま」のアレクセイ・ヴェネディクトフ編集長は、3月11日よりYouTube「Jivoi Gvozdi（Living Nail）」チャンネルの配信を開始した。現在77.7万人がチャンネル登録する人気番組となっている[14]（2023年2月24日現在。以下すべて同日）。動画は毎日配信され、再生回数は数万回～数十万回と毎回安定した人気を維持している。最も再生回数が多かった3配信は、侵攻開始から25日後の3月21

日の配信で、経済・地理学を専門とするナタリア・ズバレーヴィッチ・モスクワ大学教授がゲストとして出演した回[15]（98 万回）であった。次いで 10 月 8 日のモスクワ国際関係大学元教授で政治学者のヴァレリー・ソロヴェイがゲスト出演した回[16]（96 万回）、そして 4 月 21 日のヴェネディクトフとドミトリー・ムラトフとの対談放送[17]（92 万回）で、いずれも 100 万回近く再生されている。ソロヴェイは反政権活動家ナワリヌイの支持者として知られるインテリのインフルエンサーで、登録者数 52 万人の YouTube チャンネル「This is Solovey」がある。（ソロヴェイは、2022 年 9 月 9 日にロシア政府から外国エージェントに登録されている[18]。）

3 月に閉鎖された TVRain は、7 月よりラトビアに拠点を移し、同月 19 日より YouTube にて番組の配信を再開した[19]。再開後初の放送の冒頭で、同社のジャーナリストで司会者のティホン・ジャドゥコは、TVRain の刑事処罰の可能性があったために活動を停止してモスクワから去る選択をしたと述べた。TVRain は活動停止以前から YouTube チャンネルを持っているため、「Jivoi Gvozdi」との単純比較はできないが、現時点で 374 万人のチャンネル登録者数がいる。再生回数は高水準を維持しており、最も視聴回数が多かったのは、経済学者で反政権的立場のパリ政治学院セルゲイ・グリエフ教授がゲスト出演した 20 分ほどの番組配信（2 月 28 日）で、487 万回であった[20]。またゲストへのインタビュー番組だけでなく、毎日ライブ配信される 1、2 時間の情報・報道番組は、毎回再生回数が 10 ～ 30 万回と安定して高い。

しかし TVRain は、ラトビアへの移転から 5 カ月ほど経った 12 月 6 日、再び活動停止となった。ラトビアが TVRain の放送ライセンスを取り消したためである。その理由は「国家安全保障と社会秩序に対する脅威」（3 回目の違反）だった。これまで 2 回の違反（ラトビア語字幕の提供をしなかったこと、クリミアがロシア領の一部として地図上に表示されたこと）を注意されていた TVRain であったが、同局ジャーナリストのアレクセイ・コロステレフが、ロシア軍を「我が軍」と呼び、動員された兵士への物資の支援の呼び掛けと捉えられる発言を放送内で行ったことが問題視された。TVRain はコロステレフの発言を「不適切だった」と配信で謝罪したが、ラトビアを拠点とする TVRain 放送は停止された。いったんは欧州から追い出された TVRain であったが、12 月 22 日、アムステルダムで 5 年間の放送ライセンスを取得しオランダから放送を再開している。

「ノーバヤ・ガゼータ」は、ロシアを出国したジャーナリストらによって「ノーバヤ・ガゼータ欧州」として 4 月よりラトビアを拠点に活動を始めた。既存の「ノーバヤ・ガゼータ」の YouTube チャンネルは登録者数が 58.5 万人であるが（現在動画配信は

停止中)、新たに創設された YouTube チャンネル「ノーバヤ・ガゼータ欧州」は 18.2 万人と少ない。これは、「ノーバヤ・ガゼータ欧州」がウェブサイト上での活字投稿を主流としているためであろう[21]。活字投稿は毎日配信されている。デジタル版冊子「ノーバヤ・ガゼータ欧州」初号（5 月 9 日）では、「火傷 ロシアは勝利のカルトを無意味で冷酷な戦争のカルトに変えた」、「ハリコフ―モスクワ。ロシアは地獄の『サプサン[22]』に入った」、「閉鎖経済―崩壊の母。ロシアはソ連の道を繰り返し、経済的孤立に追い込まれている」といった記事が並び、ウクライナ侵攻への批判を引き続き展開している[23]。「ノーバヤ・ガゼータ欧州」は、YouTube チャンネル登録者数は少ないものの、動画配信において一定数の無視できない再生回数を持っていることは指摘しておきたい。2022 年秋にラトビアへ出国し、反戦の立場を表明しているロシアの人気俳優アルトゥール・スモリャニノフ[24]がゲスト出演した 2023 年 1 月 26 日の配信は 298 万回[25]、部分動員された兵士たちのその後を追った 12 月 20 日の配信は 108 万回されている[26]。ちなみに、既述のナタリア・ズバレーヴィッチもこれまで 2 回ゲスト出演し、それぞれ 29 万回、33 万回と再生されている[27]。

このように、露独立系メディアは現在ロシア国外に拠点を移して活動を続けている。彼らは毎日配信を行っており、それらの動画がアップロードされるやいなや数十万回、数百万回と再生され続けている。配信は全てロシア語で、ロシア語話者をターゲットとしたものである。もちろん視聴者はロシア国内からのアクセスに限定されるわけではない。しかしながら「戦時下」において、多種多様な見解をロシア語で配信し続けるこれらのメディア、それを視聴するロシア語話者がいることを我々は無視すべきではない。

次に、侵攻開始から 1 年弱のロシア国民の心情について推察してみたい。まずウクライナそのものへの心情・関心である。2022 年 8 月英ガーディアン紙は、ロシア国民はウクライナへの関心を低下させていると報じたが[28]、それは一時的なものであったと思われる。露独立系世論調査レヴァダセンターは、2022 年 4 月より「ウクライナの状況を懸念しているか」について意識調査を継続的に行っている。調査対象は 18 歳以上の都市部・農村部の住民 1600 人で、調査結果は表の通りである[29]。興味深いのは、2022 年 9 月及び 10 月に国民の関心がピークに達している点である。「非常に懸念」との回答が過半数を超え、「ある程度懸念」の回答とを合わせると、この 2 カ月は 88% が懸念しているとの結果が出た。この時期は、プーチン大統領による部分動員令が発令され（2022 年 9 月 21 日）、その後セルゲイ・ショイグ国防相によって部分動員令にもとづく 30 万人の招集完了が報告された時期（2022 年 10 月 28 日）

ロシア国民の心情及び生活状況

レヴァダセンター調査結果（%）	2022.4/22	5/22	6/22	7/22	8/22
（ウクライナの状況を）非常に懸念	46	40	43	44	37
ある程度懸念	36	40	37	37	37
あまり懸念していない	9	13	11	12	13
全く懸念していない	7	7	8	7	11
回答困難	3	1	1	1	1
	9/22	10/22	11/22	12/22	2023.1/23
（ウクライナの状況を）非常に懸念	56	58	42	46	45
ある程度懸念	32	30	38	38	39
あまり懸念していない	7	6	12	9	9
全く懸念していない	4	5	7	5	5
回答困難	1	1	1	2	2

と重なる。また、8 月こそ「非常に懸念」と「ある程度懸念」が 74% だったが、それ以外の月は全体の 80%（以上）が懸念すると答えているから、決してロシア国民がウクライナ侵攻に対して関心を持っていないというわけではない。（ただし、ここで示す関心が、軍事作戦を支持する「関心」か、支持しない「関心」かどうかは不明である。）

次に多様な声を出し辛くなったロシア国民の心情がどこに向けられているのか、ロシア国内の書籍売り上げの動向から彼らの心情を推察してみたい。前年 2021 年の人気書籍のジャンル別の統計では、第 1 位：ファンタジー、第 2 位：フィクション、第 3 位：推理小説、第 4 位：古典文学、第 5 位：心理学や自己啓発となっていた[30]。最も読まれたトップ 3 をあげると、ハリーポッターシリーズ、スティーブン・キングの小説、アンジェイ・サプコフスキの『ウィッチャー』がランクインしていた[31]。2021 年は読者の想像を掻き立てる非日常を描く作品が人気であった。

ところが 2022 年は、ディストピア、心理学、政治学に関する書籍の売り上げが伸びている。特にジョージ・オーウェルのディストピア SF 小説『1984』（1949）は毎週上位にランクインし[32]、ロシア人作家を差し置いて古典文学部門のベストセラーにもなっている。『1984』以外の 2022 年上半期のベストセラー書籍は、西欧文学史専門家でジャーナリストのニコライ・エップレの «Неудобное прошлое. Память о государственных преступлениях в России и других странах（不都合な過去　ロシアと他の国々での国家犯罪について）»（2020）、政治学者エカテリーナ・シュルマンの

『実践政治学』（2021）であった[33]。（シュルマンは 2022 年 4 月に「外国エージェント」に登録されている[34]。）続けて 2022 年年間売り上げの動向からも見てみたい。ベラルーシ生まれのジャーナリストで心理学者のオリガ・プリマチェンコの «К себе нежно（自分に優しく）»（前年比 83% 増）、ジョージ・オーウェルの『1984』（前年比 45% 増）、スロヴァキア生まれのハンガリー系ユダヤ人でホロコーストの生存者・心理学者のエディス・エヴァ・イーガー «Выбор. О свободе и внутренней силе человека（選択 人間の自由と内面的強さ）»（前年比 104%）、テレビ司会者や現代作家として人気な心理学者、タチアナ・ムジツカヤ «Роман с самим собой. Как уравновесить внутренние ян и инь и не отвлекаться на всякую хрень（自分とのロマンス 心の中の陽・陰のバランスのとり方とあらゆるくだらないことに惑わされない方法）»（前年比 67%、オーディオブック第 1 位）、スウェーデンのコラムニストのフレドリック・バックマン «Тревожные люди（不安な人々）» が上位 5 位にランクインしていた[35]。2021 年の人気書籍と比べて、心理学や自己啓発に関する書籍の人気が高まっていることは、「戦時下」のロシア国民の行き場のない内なる「声」とも読み取れるだろう。

侵攻とロシア国民の国外移住

さて、侵攻以降ロシア国民の国外脱出が注目されたが、これも彼らの「声」である。プーチン政権は、長年にわたって人口減少問題に取り組んでいる。人口の国外流出自体痛手であるのは明白だ。ロシア国民が他国へ移住する動きは、90 年代の連邦崩壊以降から続いており、政権が長期的に抱える不安材料である。プーチン政権発足以降過去 20 年の間に他国へ移住したロシア国民は 500 万人いる[36]。特に 2011 年の選挙結果不正を訴える大規模抗議デモの発生以降は、ロシアからの出国・移住希望者が増加し、過去 10 年間の統計では 300 万人がロシアから出国・移住した[37]。主として西側諸国への移住を選択したロシア国民 900 人を調査した、International Wealth の 2022 年 1 月発表の分析によれば（西側諸国のロシア人コミュニティの調査結果。中央アジアへの移住は統計に入っていない。）、出国した主な理由は（複数回答可）、安全：64%、新たな生活体験：59%、政治情勢：54%、安定：53%、子供の将来のため：51%、社会の寛容度：50% であった。侵攻前のデータだが、政治的なものを理由とした解答が上位にあがっているのは興味深い。また移住した 55% が 30 ～ 40 歳で、

高等教育の学歴がある者は全体の 92% に及んでいる[38]。これは頭脳流出と言えるだろう。

侵攻以降のロシア国民の出国・移住状況はどうかというと、The Bell の報道では少なくとも 51 万 2421 人と述べている[39]（2022 年 12 月 30 日付。ここでは仕事があり定住する人を対象としている。ちなみに 50 万人は東大阪市の総人口に匹敵する。Forbes は 10 月 4 日付で 70 万人と報道[40]。ノーバヤ・ガゼータ紙は 12 月 27 日付で 45 万 4000 人と報道[41]。）10 カ月間で 50 万人が国外移住に至ったことは、これまでの傾向よりも多かった。例えば、先で記した過去 10 年間の出国者数 300 万人は年平均にして 30 万人であり[42]、単純計算で 2022 年は 20 万人増である。ただし侵攻と国外移住選択との因果関係は今後の調査結果を待つ必要がある。仮に前年までの移住者数の傾向が 2022 年も維持されていたとするならば、51 万 2421 人のうち 30 万人は侵攻との因果関係はないかもしれない。現時点でやや乱暴な計算をすれば、侵攻が直接与えた増加幅は 20 万人で、全体の 40% と評価できよう。

2022 年 2 月以降のロシアからの出国の波は大きく 2 回あった。一つは侵攻直後で、露国境が封鎖される可能性を危惧した人々が出国した。二つ目は部分動員令が出された後である。いずれの 2 回とも航空券の買い占めや露国境付近の陸路が何キロにも渡って渋滞するなどの事態に陥った。The Bell は侵攻以降のロシア国民の移住先国別の統計を発表している。その内訳は、グルジア：11 万 2000 人、カザフスタン：10 万人、トルコ：7 万 8074 人、セルビア：5 万人、アルメニア：4 万人、イスラエル：3 万 8000 人、欧州：3 万 6282 人、キルギスタン：3 万 4000 人、アメリカ：2 万 5000 人、モンゴル：7787 人である[43]。国外移住した人々の職業にも注目したい。既述の The Bell の報道によれば、少なくとも移住した 51 万 2421 人のうち 10 万人が IT 技術者で、ロシアの IT 企業従業員の 10% に相当するという[44]。ロシアの IT 技術者は 20 ～ 34 歳の男性が大半であるから、重要な頭脳労働者の流出は中長期的にみてロシア経済への打撃となろう。IT 技術者の出国は、2022 年 9 月時点で Forbes がロシアに残る IT 技術者の 25% が次年に転勤を予定していると報じていたこともあり[45]、引き続き政権の懸念事項であろう。デジタルトランスフォーメーション時代を支える頭脳労働者のロシア離れ、国外移住と侵攻との関係は、2023 年以降も注目すべきトピックである。

ロシア国外への移住の流れは今後も止みそうにない。2022 年 12 月、ノーバヤ・ガゼータ紙は、ロシア国民の外国用パスポート申請率の急増を報じている。（ロシアでは身分証代わりの国内用パスポートと海外渡航用のパスポートの 2 種類がある。）2016 年の露独立系世論調査レヴァダセンターの調査結果では、国民の 72% が外国用

パスポートを持っていなかった[46]。現在でも、大都市でさえ外国用パスポートの所持率は30%、地方へ行くとさらに低くなり、小都市は21%、地方は10%である。ところが、2月の侵攻以降、露内務省発表によれば、2022年上半期に前年の1.5倍にあたる250万人が外国用パスポートの申請をしたという[47]。（ロシア国民は旧ソ連圏のベラルーシ、カザフスタン、キルギスタン、アルメニアへは外国用パスポートなしに入国可能である。）新たに外国用パスポートを申請した人々が国外移住するかどうかは不明であるが、彼らの「声」として留意すべきである。

おわりに

露人権メディアプロジェクトOVD-infoによれば、2022年1月～12月の間にロシアでは様々なピケや抗議活動が実施されたが、拘束や暴力を受けたケースの95%が今回のウクライナ侵攻に関連したものだったという[48]（2022年、環境問題、汚職、「LGBT法」案反対などの抗議活動で、政権当局による拘束や暴力的行為を受けた者はロシア全土で2万467人いたが、うち反戦活動を理由としたものは1万9478人であった）。最近はロシアの女性たちの「声」に変化が起きている。2022年2月24日～3月17日までの大規模抗議デモに参加した男女比は、女性：44%、男性：56%で男性の方が多かったが、部分動員令が出された2022年9月21日の大規模抗議デモでは（この時は半年ぶりの全国規模の抗議デモとなった）、女性：51%、男性：49%、その2日後の9月23日には、女性：71%、男性：29%と、女性の積極的参加が顕著になっている。サンクトペテルブルグでは、11月15日、兵士の母たちがピケを実施し、息子をウクライナ東部へ送らないよう要請したことも報じられた[49]。女性たちの「声」が表に出る一方で、これまで少なくとも8,500人の女性が拘束され、拘束者全体の43.6%に及んでいる[50]。

「特別軍事作戦」の終わりは今のところ見えない。既述した通り、現在ロシアでは「特別軍事作戦」に対する多種多様な立場の者の声を制約なしに出すことは非常に厳しい。「力」による国民の「声」の抑制は引き続き憂慮される。しかしながら、何らかの形でロシア国民が自らの「声」を発している、発しようとしていることに、我々は今後も注目していく必要があるだろう。

――注――

1 http://www kremlin ru/acts/news/67908　ロシア軍に関する「フェイクニュース」を拡散した場合、最大で 15 年の刑が科されることになった。https://iz ru/1300873/2022-03-04/putin-utverdil-ugolovnuiu-otvetstvennost-za-feiki-o-deistviiakh-vs-rossii

2 https://www.currenttime.tv/a/protest-russia-war/32187666.html

3 本節は拙考「ロシアからみたウクライナ問題」アジア・アフリカ研究 2022 年第 62 巻第 4 号を修正したものである。

4 侵攻直後、SNS の呼びかけにモスクワでは 1000 人以上が集結。全国 60 都市で抗議デモや集会が開かれ 1800 人以上が拘束された。『朝日新聞』「ロシアで反戦デモ、1800 人超拘束」2022 年 2 月 26 日デジタル版。

5 https://www.theguardian.com/world/2022/mar/04/russia-completely-blocks-access-to-facebook-and-twitter　https://www.vox.com/recode/22962274/russia-block-instagram-facebook-restrict-twitter-putin-censorship-ukraine

6 1990 年開局。1991 年 8 月クーデターで活躍した。編集長はアレクセイ・ヴェネディクトフ。ウクライナへの特別軍事作戦を「戦争」、「侵攻」と表現していた。解散発表後、活動拠点は YouTube へ移行している。

7 2010 年より放送開始。2011 年に露下院選挙不正疑惑で大規模な反政府抗議デモが発生した際、その活動が注目された。独ソ戦争時のレニングラード包囲戦に関する報道のあり方をめぐって政権から批判され、2014 年に閉鎖に追い込まれた。その後活動の場をテレビチャンネルからインターネットへ移したが、2021 年 8 月に外国から資金提供や寄付を受けて「政治活動」を行う「外国エージェント」に登録された。同年 10 月に外国からの資金調達を凍結したことで削除されたが、2022 年 3 月にウクライナ侵攻に関する報道のあり方をめぐり、ロシア政府から「誤った情報」を提供しているとして活動停止が言い渡された。https://meduza.io/news/2021/08/23/dozhd-vnesli-v-spiski-inoagentov-po-zaprosu-roskomnadzora-iz-za-togo-chto-telekanal-rasprostranyal-materialy-sozdannye-drugimi-inoagentami　https://lenta ru/news/2021/10/21/rkn/

8 編集長アレクセイ・ヴェネディクトフは、取締役会にてウェブサイトやラジオ局の解散を決定したと、自身のテレグラムで発表した。https://www kommersant ru/doc/5239773

9 https://www kommersant ru/doc/5239773

10 https://www.mk ru/politics/2022/03/03/ekho-moskvy-oshtrafovano-za-ukrainskiy-yazyk-v-programme.html

11 ソ連では何らかの政治的事件が発生した際、チャイコフスキーのバレエ「白鳥の湖」を放映していた。ソ連国営テレビはレオニード・ブレジネフの死後、新しい党首が選ばれる間繰り返しバレエを放映、ユーリ・アンドロポフ、コンスタンチン・チェルネンコの死後も同様のことをした。1991 年ミハイル・ゴルバチョフの打倒を試みるクーデターの最中も、国営放送は同バレエを放映した。https://www.huffpost.com/entry/tv-rain-no-to-war-swan-lake_n_62215ed4e4b0bd1df7692c36

12 1 年に 2 度警告を受けるとメディア登録証明書を削除する訴訟の根拠となりうる。https://www kommersant ru/doc/5281631

13 https://novayagazeta ru/articles/2022/03/28/my-priostanavlivaem-rabotu

14 https://www.youtube.com/channel/UCWAIvx2yYLK_xTYD4F2mUNw/featured
15 https://www.youtube.com/watch?v=1AAdDLy4FfI&t=3s
16 https://www.youtube.com/watch?v=aVzNV56RZus
17 https://www.youtube.com/watch?v=FT-W7reflm0&t=1921s
18 https://ria ru/20221011/solovey-1823107754.html
19 https://www.youtube.com/watch?v=kk6kbL5P8XU
20 https://www.youtube.com/watch?v=CQc9bDE3yao&t=4s
21 https://novayagazeta.eu/
22 ロシアの高速列車のこと。
23 https://novayagazeta.eu/issues/1
24 2022 年 10 月 13 日 Meduza のインタビューに答えたスモリャニノフは、2022 年 4 月に独立系ジャーナリスト・カテリーナ・ゴルレエワの YouTube 番組「TellGordeevoi」に出演し反戦の意思を表明したのち、複数の国営メディアの仕事を降ろされたという。また、もともとロシアを去るつもりであったと話している。https://meduza.io/feature/2022/10/13/chto-s-nami-ne-tak-pochemu-my-ne-mozhem-prosto-zhit-po-chelovecheski
25 https://www.youtube.com/watch?v=c1Qs531g0d8&t=109s
26 https://www.youtube.com/watch?v=xcG5dd4_daQ&t=95s
27 https://www.youtube.com/watch?v=7t0qbXgZKS0　https://www.youtube.com/watch?v=3i3w4DNWRkM
28 https://www.theguardian.com/world/2022/jul/30/people-are-turning-off-muscovites-put-the-war-aside-and-enjoy-summer
29 https://www.levada ru/2023/02/02/konflikt-s-ukrainoj-otsenki-yanvarya-2023-goda/
30 https://ria ru/20211210/knigi-1763117128.html
31 https://www kp ru/afisha/msk/obzory/knigi/rejting-samyh-populyarnyh-knig-2021/
32 『1984』の最初の翻訳は 1950 年代後半にソ連で刊行されているが、2022 年 5 月に新訳版がロシアで刊行されている。翻訳者はダリヤ・ツェロヴァリニコワ。https://ast ru/news/intervyu-s-darey-tselovalnikovoy-avtorom-novogo-perevoda-1984/　ジョージ・オーウェルが侵攻開始直後から人気を博している。https://www rbc ru/life/news/63986c7a9a7947f7d01034db
33 https://www rbc ru/life/news/62ea43289a7947279588b199
34 https://www rbc ru/rbcfreenews/625adc6a9a79470ff0d83c58
35 https://www rbc ru/society/13/12/2022/63980e219a7947ce77eec0c8
36 https://internationalwealth.info/immigration-and-emigration-offshore/za-poslednie-20-let-navsegda-uehat-iz-rossii-smogli-do-5-millionov-grazhdan-statistika/
37 https://novayagazeta ru/articles/2022/12/27/strana-ubytiia　ちなみに、2021 年 10 月 7 日のノーバヤ・ガゼータ紙は、2016 年から 2019 年までの 3 年間の国外移住者数を 27 万 6672 人～ 30 万 9199 人と報じている。同紙では、移住者の 55% が 30 歳から 40 歳であること、移住の主な理由を、安全・安定への欲求と子供たちの将来への懸念と報じていて、International Wealth のデータと差異がない。https://novayagazeta ru/articles/2021/10/07/issledovanie-za-20-let-iz-rossii-uekhali-do-5-millionov-chelovek-news
38 https://internationalwealth.info/immigration-and-emigration-offshore/za-poslednie-20-let-navsegda-uehat-iz-rossii-smogli-do-5-millionov-grazhdan-statistika/

39 https://thebell.io/skolko-rossiyan-v-2022-godu-uekhalo-iz-strany-i-ne-vernulos

40 70 万人はフォーブスの 2022 年 10 月 4 日付の報道で、部分動員令後の 2 週間で 70 万人がロシアから出国したと報じている。https://www.forbes ru/society/478827-rossiu-posle-21-sentabra-pokinuli-okolo-700-000-grazdan

41 https://novayagazeta ru/articles/2022/12/27/strana-ubytiia

42 https://novayagazeta ru/articles/2022/12/27/strana-ubytiia

43 https://thebell.io/skolko-rossiyan-v-2022-godu-uekhalo-iz-strany-i-ne-vernulos　The Bell ではアゼルバイジャンとタジキスタンは数字を公表しておらず、ウズベキスタンは到着したロシア人の数のみ公表し、ウズベキスタン経由で他国へ出国してケースを追っていないと報じている。

44 https://thebell.io/skolko-rossiyan-v-2022-godu-uekhalo-iz-strany-i-ne-vernulos

45 https://www.forbes ru/svoi-biznes/477957-bolee-30-it-specialistov-uehali-iz-rossii-ili-planiruut-relokaciu

46 https://www.levada ru/2016/04/26/nalichie-zagranpasporta-i-poezdki-za-rubezh/

47 https://novayagazeta ru/articles/2022/12/27/strana-ubytiia

48 https://data.ovdinfo.org/repressii-v-rossii-v-2022-godu#1　また OVD-info によれば、2022 年 2 月の侵攻から最初の数週間で 1 万 3500 人が拘束されたという。https://www rferl.org/a/russia-lackluster-antiwar-movement-ukraine-invasion/32000288.html

49 https://www.severreal.org/a/materi-srochnikov-trebuyut-mirnyh-peregovorov-/32131451.html この日は徴集兵がロシア各地の訓練施設へ送られたとのニュースが報じられていた。https://tass ru/armiya-i-opk/16325055

50 https://data.ovdinfo.org/repressii-v-rossii-v-2022-godu#2